



## ごあいさつ



京都市長 門川 大作

1200年の歴史の息づかい、山紫水明の自然、美しい町並みのなかで市民の皆様がいきいきと暮らす京都。伝統産業から先端産業まで、優れた知恵と融合・集積する「ものづくりのまち」、京都議定書誕生の地、環境モデル都市である「環境先進のまち」、国内外の人々を魅了する「国際観光のまち」など、京都には多様な、そしてそれぞれ世界に誇る、優れた特性があります。

いま、人口減少・少子高齢化、進む地球温暖化など、私たちは様々な困難な課題に直面しています。しかし、京都ならではの都市特性を最大限に発揮し、ピンチをチャンスに知恵と力を結集すれば、必ず困難を乗り越えて未来を切り拓ける。私はそう確信しています。

この度、下京区の皆様の英知を結集し、下京区の個性を最大限に生かした魅力ある地域づくりを進めるための指針となる「下京区基本計画」を策定しました。この下京区基本計画は、今後10年間の京都の未来像と主要政策を明示した「はばたけ未来! 京プラン(京都市基本計画)」とともに、市民の皆様と夢と希望、危機感と責任を共有して描いた「未来の京都」を実現するためのシナリオとなるものです。

策定にあたりましては、自治会や各種団体の方々で構成する住民円卓会議や、学識経験者・区民の皆様等による下京区基本計画策定委員会などで深い議論を重ねていただきました。皆様に深く感謝申し上げます。

下京区の皆様の熱い思い、夢、希望がぎゅぎゅ詰まったこのシナリオを手には、私は、皆様とともに汗する「共汗」と、徹底した市民目線による政策の「融合」を基本に、“地域主権時代のモデル”となる未来の京都のまちづくりを全力で進めて参ります。そして、50年後、100年後も「日本に京都があつてよかった」、「京都に住んでよかった」と実感していただける魅力溢れる京都を築いていく決意です。

さあ、皆様!希望に満ちた未来へと、下京区が、そして京都が、更に高く、強く美しくはばたくよう共に力を合わせて参りましょう。



下京区長 西川隆善

下京区では、この度、平成23年度から10年間の下京区のまちづくりの指針となる「下京区基本計画」を策定しました。この計画は、下京区の現状を踏まえながら、10年後のまちの姿を思い描き、それを実現するための様々な「とりくみ」をとりまとめたものです。

計画の策定にあたりまして、地域の魅力や課題について活発にご議論いただいた「住民円卓会議」や、それを踏まえて計画案の審議を精力的に行っていただいた「下京区基本計画策定委員会」のメンバーの皆様方に厚く御礼申し上げますとともに、パブリックコメントをはじめ、計画案に対して貴重なご意見をお寄せいただいた区内外の多くの方々に心より感謝申し上げます。上げる次第です。

下京区におきましては、これまでに築かれてきた町衆文化や住民自治の伝統を踏まえながら、新規に区内へ住まわれる方の増加やNPOなどの「志縁」組織の増大など、昨今の状況に対応して、旧来の考え方にとらわれない新たな絆を作ることが求められています。一方、下京区は、全国、世界に開かれた京都市の玄関口としての役割を担っており、現在、梅小路公園再整備や新規商業施設の開業など、全市レベルの様々なプロジェクトが進行し、各エリアにおいて魅力が高まっている中、それらをつなぎあわせて、区全体の魅力向上へと結びつけることが期待されています。

このような状況の下、今回の計画では、「つなぐ」をキーワードに位置付け、「絆,魅力,伝統を未来につなぐまち 下京」を10年間のまちづくりのテーマとして掲げることと致しました。

このたびの計画は、行政はもとより区民の皆さんが主体となって進めていただく取組が多く掲げられています。今後、この計画を指針として、区民の皆様と共に、すばらしい下京のまちづくりにまい進していければと考えております。皆様のご理解とご参画をお待ちしております。

# 下京区基本計画の構成

## 1. 下京区の現状

- 下京区の現状と取り巻く状況
  - ・人口・世帯構造の変化
  - ・まちを取り巻く変化

## 2. まちの強み (個性と魅力)

- 下京区全体
  - 利便性
  - コミュニティ
  - 伝統が息づく文化
  - 新たなまちづくりプロジェクト

○各ブロック

- 「北東地域」京都を代表する賑わいと、神事・伝統産業の技術が息づくまち
- 「北西地域」京都産業の歴史を培い、今を担い、未来を創造し、京都の活力を育むまち
- 「南東地域」国際文化観光都市の玄関口と新たな学区コミュニティのモデルとして、京都の「顔」の役割を担うまち
- 「南西地域」心地よい住環境と新しい体験型教育が都心で共存する、住みごたえのあるまち

## 3. 強みを生かした10年後のまちの姿

## 4. 今後10年のまちづくりのテーマ

絆,魅力,伝統を未来につなぐまち 下京

## 5. テーマごとの取組

### テーマⅠ 人と人との絆をつなぐ

- 健やかな暮らしを地域力で育もう
- 近所のお付き合いで安心を支えよう
- 地域力を生かして安全を高めよう

### テーマⅡ まちの資源や魅力をつなぐ

- まちの活力を高めよう
- まちの個性を生かし魅力を高めよう

### テーマⅢ 歴史と伝統を未来へつなぐ

- エゴを捨ててエコ活動しよう
- 担い手の育ちを支えよう

## 6. まずやること

- ①下京歩歩塾の実施
- ②いざという時のための安心安全の情報共有
- ③安全で環境に貢献する夜間門灯点灯運動
- ④梅小路の賑わいづくり商業者ネットワーク
- ⑤歩いて知る、下京魅力再発見
- ⑥花と緑の下京回廊づくり

※テーマ横断型で、重点的に取り組む事業

## 7. 計画の推進とチェックのために

- (1) 進捗状況、検証
- (2) 推進体制づくり
- (3) 下京まちづくり先進事例の紹介・活用
- (4) ワークショップ運営などの人材育成

## 8. 指標

# 計画策定の基本的考え方

- ◎区民が主体となって、区民同士、そして区民と行政との協働で取り組む「まちづくり計画」です。
- ◎国際文化観光都市・京都における「玄関間（げんかんま）」としての役割を担うとともに、このまちを支える区民の「絆」を守り育てるための計画です。
- ◎計画が実効性を持ち、区民自ら実行することで、暮らしが良くなったと具体的に感じられる計画です。

### ※玄関間

通り過ぎるだけでなく、しばらくの時間とどまって、過ごしてもらえる空間

## 1. 下京区の現状

### 1 下京区の現状と取り巻く状況（前計画以降の下京区の特徴的な変化）

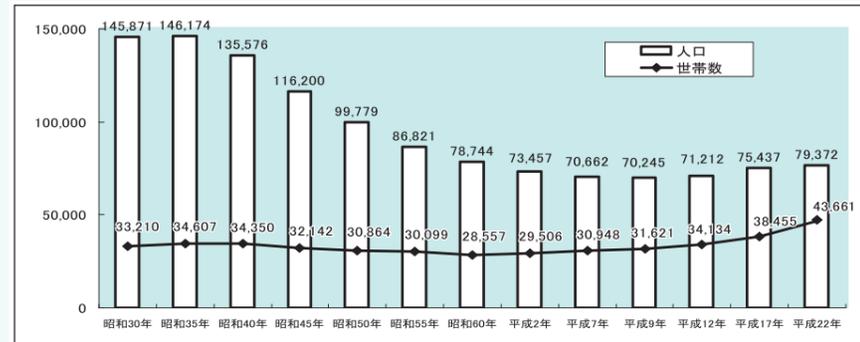
#### ① 人口・世帯構造の変化

- 人口の反転（前計画では減少を予想、平成9年以降反転して増加）[\[図1参照\]](#)
- 高齢者の増加 [\[図2参照\]](#)
- 三世帯世帯の減少、単身・高齢のみ世帯の増加など世帯単位の縮小、変化
- マンションの増加とコミュニティへの影響（交流・状況把握の困難さ）

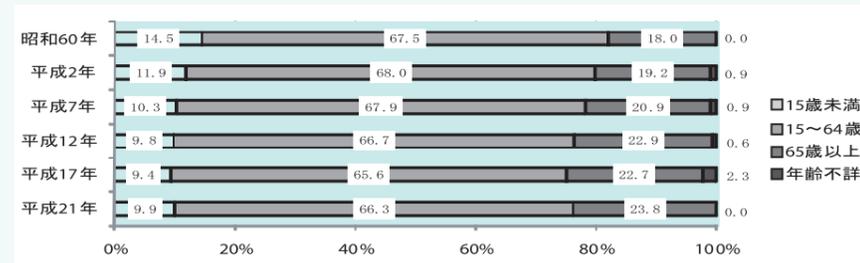
#### 【参考データ】

- ・住宅の変化（共同住宅の増加）[\[表1参照\]](#)
- ・昼夜間人口数・比率（11区で最も高い昼間人口比率＝働くまち）[\[図3参照\]](#)

■ 図1：人口（平成9年は4月1日現在の推計人口、平成22年は国勢調査の速報値、それ以外は各年国勢調査）



■ 図2：年齢階層別人口（平成21年は10月1日現在の推計人口に基づく人口、それ以外は各年国勢調査）



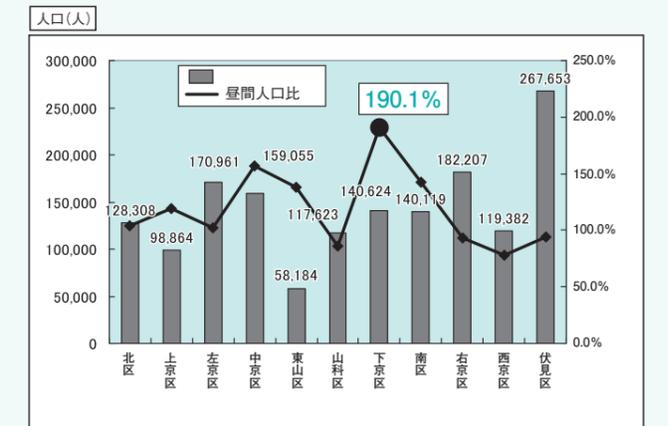
■ 表1：住宅の変化（共同住宅の増加）

#### 《タイプ別の住宅数》

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
総数	27,390	27,832	29,447	32,960	36,028
一戸建て	13,732	12,832	12,351	13,467	12,971
長屋建て	6,472	5,128	4,515	3,393	2,742
共同住宅					
総数	7,042	9,718	12,426	15,915	20,161
1・2階	2,380	1,722	1,546	1,345	1,177
3～5階	2,834	4,346	5,543	5,962	6,533
6～10階				5,530	7,184
11階～	1,828	3,650	5,337	3,078	5,267
その他	144	154	116	185	154
共同住宅比率	25.71%	34.92%	42.20%	48.29%	55.96%

京都市統計書

■ 図3：昼間・夜間人口比率



京都市統計書

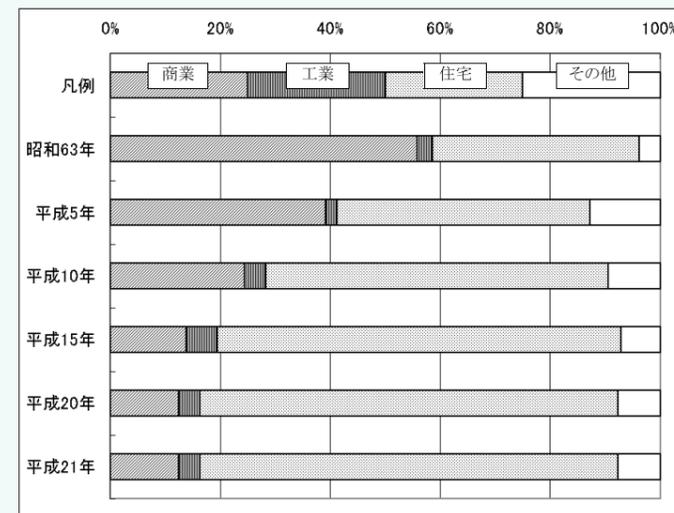
#### ② まちを取り巻く変化

- 地域産業・商業を取り巻く厳しい経済環境
- 観光・交流人口の増加
- 都心回帰の傾向（新たな大規模商業施設の立地、マンションの増加）
- 学校統合の進展（下京中学校→平成19年4月開校、下京渉成小学校→平成22年4月開校）
- 京都総合観光案内所の開設（平成22年3月）
- JR嵯峨野線（京都・園部間）複線化開業（平成22年4月）
- 新たな都心プロジェクトなどの進展（9頁「④新たなまちづくりプロジェクト」参照）

#### 【参考データ】

- ・土地利用の変化（商業地の減少、住宅地の増加）[\[図4参照\]](#)

■ 図4：土地利用



京都市統計書



## 2. まちの強み(個性と魅力)

### (1) 下京区全体の強み

#### ① 利便性

##### 【京都の玄関口】

国際文化観光都市・京都の玄関口である京都駅をはじめ、コンパクトな区域に多数の鉄道網・鉄道駅があって、移動にとっても便利なまちです。

また、玄関口にとどまらず、歴史文化資源が集積し、京都を訪れる人が憩いの時間を過ごす「玄関間」でもあります。

##### 【京都一の商業集積】

四条通や京都駅という、京都市の中心となる商業集積地を抱え、京都の賑わいの中核を担っています。

##### 【充実した医療機関】

区民とともに、多くの事業所・来訪者の需要もあり、医療機関が多く集積しています。特に人口当たりの診療所数は市内で最も多くなっています。

#### ② コミュニティ

##### 【学区を中心とした豊かなコミュニティ】

23の学区を中心に、町内、通りからなるコミュニティは、それぞれに多様な魅力と個性を持ち、豊かな日常生活やまちづくり、そして、防災など、緊急時の住民生活と文化財の安心安全を生み出す基盤となっています。

##### 【学校が取り持つ地域の絆】

前計画からの10年間に進んだ統合校の開校などを契機に、元学区を基盤とした従来の区民活動にとどまらず、学区同士の連携・交流による広域的なコミュニティ活動が活発に展開されるようになっていきます。

##### 【公益的な市民活動を推進・支援する拠点】

区内に立地する「ひと・まち交流館 京都」は、京都市内における様々な分野のボランティア活動やNPO活動など営利を目的とせず、他者や社会に対して貢献する市民の自主的な活動を推進・支援する拠点となっています。

##### 【都心回帰の受け皿となるコンパクトシティ】

コンパクトな区域に賑わい空間が集積し、教育環境が充実する一方、駅周辺を離れると川の流れや閑静な居住環境もあり、下京区の人口は平成9年以降、中京区・南区などとともに人口の都心回帰の受け皿となっています。

#### ③ 伝統が息づく文化

##### 【自らまちをつくる町衆文化】

番組小学校に代表される「自らの力でまちをつくる」という町衆の気概・気風を今も継承し、伝統文化や産業、行祭事、コミュニティを「町衆＝区民」の力で守り、育てています。

##### 【一大拠点を成す宗教文化】

東西両本願寺をはじめ、全国に宗派寺院を擁する仏教の本山が数多く立地し、わが国宗教文化の一大拠点となっています。平成23年には親鸞聖人750回遠忌法要が行われ、全国から多くの来訪者が訪れます。

##### 【大学都市・京都の交流拠点】

区内には龍谷大学及び池坊短期大学が立地しています。また、京都の大学の連携組織である(公財)大学コンソーシアム京都の活動拠点、キャンパスプラザ京都が立地し、京都で学ぶ学生の交流・活動拠点としての役割も果たしています。

##### 【伝統的産業と新産業の融合する産業文化】

本区は、町衆の生活文化や宗教文化を支えるものづくりや商業の拠点として発展したまちでもあります。また、技術と文化の発信・集積地としての進取の気風は今に受け継がれ、多くの産業支援機関が集積する京都市サーチパークを中心として、次代を担う京都企業を創造する「ベンチャーのまち」としての役割も担っています。

### ④ 新たなまちづくりプロジェクト

〈凡例〉

- 既に実施されたもの
- これから実施されるもの

**JR嵯峨野線(京都・園部間)複線化**  
(H22.3)

**西高瀬川 京の川再生事業**

京都府では、京の川再生事業として西高瀬川に清らかな水の流れを復活(導水事業)させ、川沿いの公園などで地域住民が水に親しめる水辺空間の整備(親水拠点整備)を計画しています。

**産業振興拠点の機能強化**

京都リサーチパーク(KRP)内に高度技術研究所と統合した「京都市中小企業支援センター」が移転(H22.4)、さらに繊維技術センターと工業技術センターが立地統合した「京都市産業技術研究所(京都ものづくり未来館)」が誕生(H22.10)し、中小・ベンチャー企業支援をはじめとする産業振興拠点の支援機能の充実・強化が進められました。

**梅小路公園再整備**

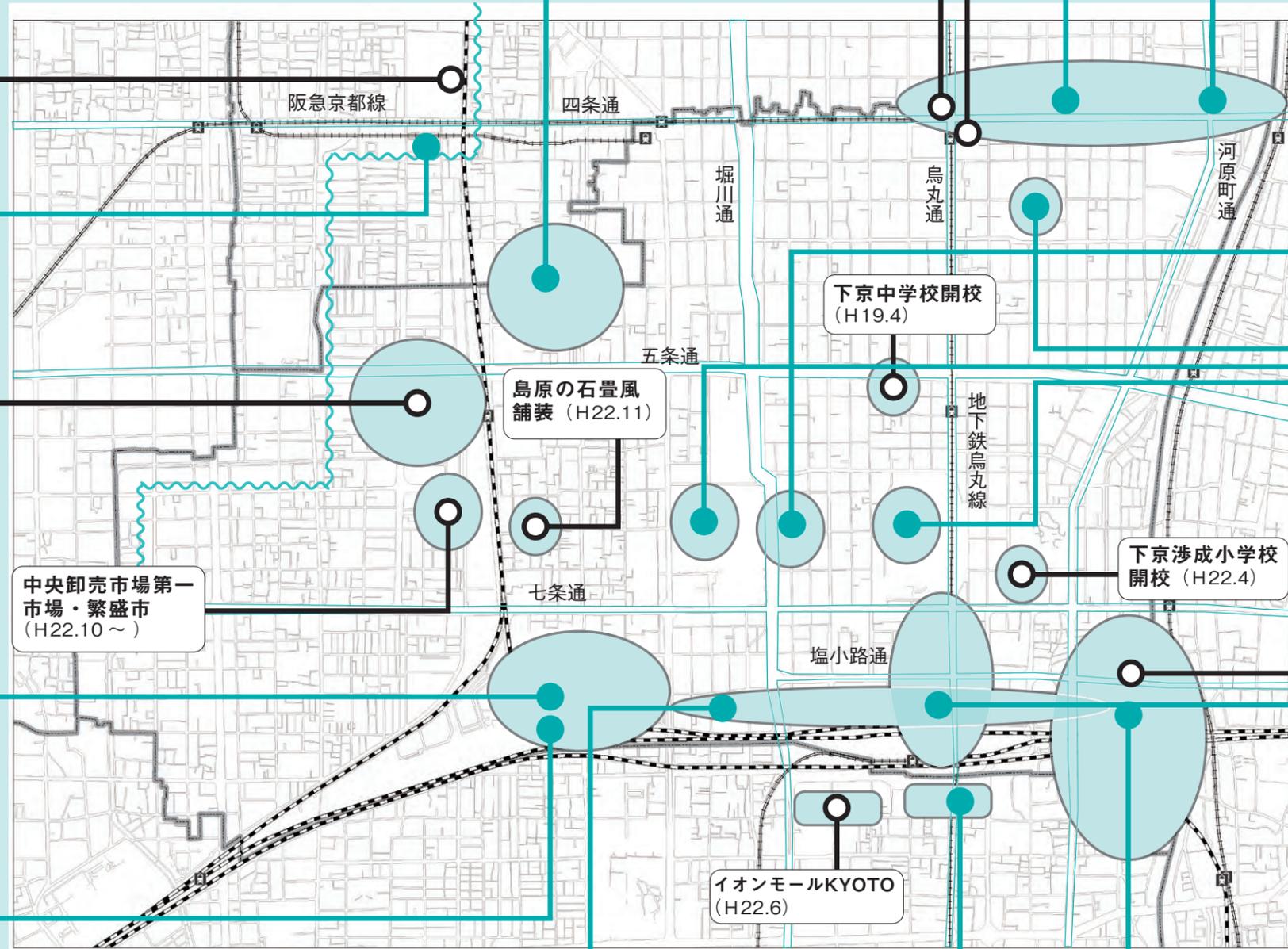
都心のオアシスである梅小路公園には、「野外ステージ」(H22.3)に加え、平成24年初頭には「(仮称)京都水族館」、平成27年度には「(仮称)京都鉄道博物館」の設置が計画されており、防災を含めた、総合公園としての機能の向上と、多様な「いのちの輝き・つながり」や文化を学び育む空間としての役割が期待されています。

**梅小路公園周辺エリア**

- 七条通の歩道整備 (H24~)  
自転車や歩行者が通行しやすい道路環境を整備します。
- 観光案内アップグレード推進事業 (H23)  
平成24年度初頭に水族館がオープン予定の梅小路公園周辺エリアにおいて、周辺の豊富な観光資源をじっくり歩いて楽しむための観光案内標識を整備します。

**京都産業大学施設及び附属高等学校・中学校の移転**

京都産業大学が平成24年4月、附属高等学校・中学校を移転・開校させるとともに、大学のサテライトキャンパスとしての活用を計画しています。



**中央卸売市場第一市場・繁盛市**  
(H22.10~)

**島原の石畳風舗装**  
(H22.11)

**イオンモールKYOTO**  
(H22.6)

**京都駅周辺浸水対策事業 塩小路幹線(下水道)の整備(塩小路(大宮通~須原通))**  
(H22~25)

地下空間の利用が高度に発達している京都駅周辺地区の浸水安全度の向上を図るため、雨天時に下水を一時的に貯留する施設を整備します。

**京都駅南口広場の整備**  
(H25年度予定)

京都駅南口広場において、交通結節機能の強化を図るとともに、安全で快適な歩行者空間を創出するための整備を行います。

**崇仁地区将来ビジョンの推進**

平成22年7月、「創造・交流・賑わいのまち」~人と地域をつなぐまちづくり~を将来ビジョンとして、改良事業の早期完了などの取組に向けた提言が出され、新たなまちづくりが期待されています。

**「歩くまち・京都」総合交通戦略**

京都市では、公共交通優先のまちづくりを市全体で進める「『歩くまち・京都』総合交通戦略」を策定し、「四条通の歩道拡幅と公共交通優先の新たなルールづくり」などを象徴的なプロジェクトとして、クルマ中心の社会から脱却し、「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進していくこととしています。

**「龍谷ミュージアム」の開館**

龍谷大学では、平成23年4月、仏教の誕生から現代の仏教まで分かりやすく紹介する、他に例のない仏教総合博物館「龍谷ミュージアム」を開館します。

**東西両本願寺等750回遠忌法要**  
(H23~24)

親鸞聖人750回遠忌法要が行われ、全国から多くの来訪者が予想されています。

**塩小路消防出張所** (H22.10)

従来の救急隊に加え、京都駅などの地域の特殊災害(核や生物、化学災害)や、列車事故などの救助事故などに対応できる「特殊災害救助隊」を配置しています。

**京都駅~烏丸通沿道の新たな魅力**

**<近年の動向>**

- 駅ナカビジネスの競演
- 京都総合観光案内所の開設 (H22.3)
- 京都駅前広場音楽噴水の設置 (H22.8)
- ヨドバシカメラ京都の開業 (H22.11)
- 塩小路通、七条通等の歩道整備 (H20~23)

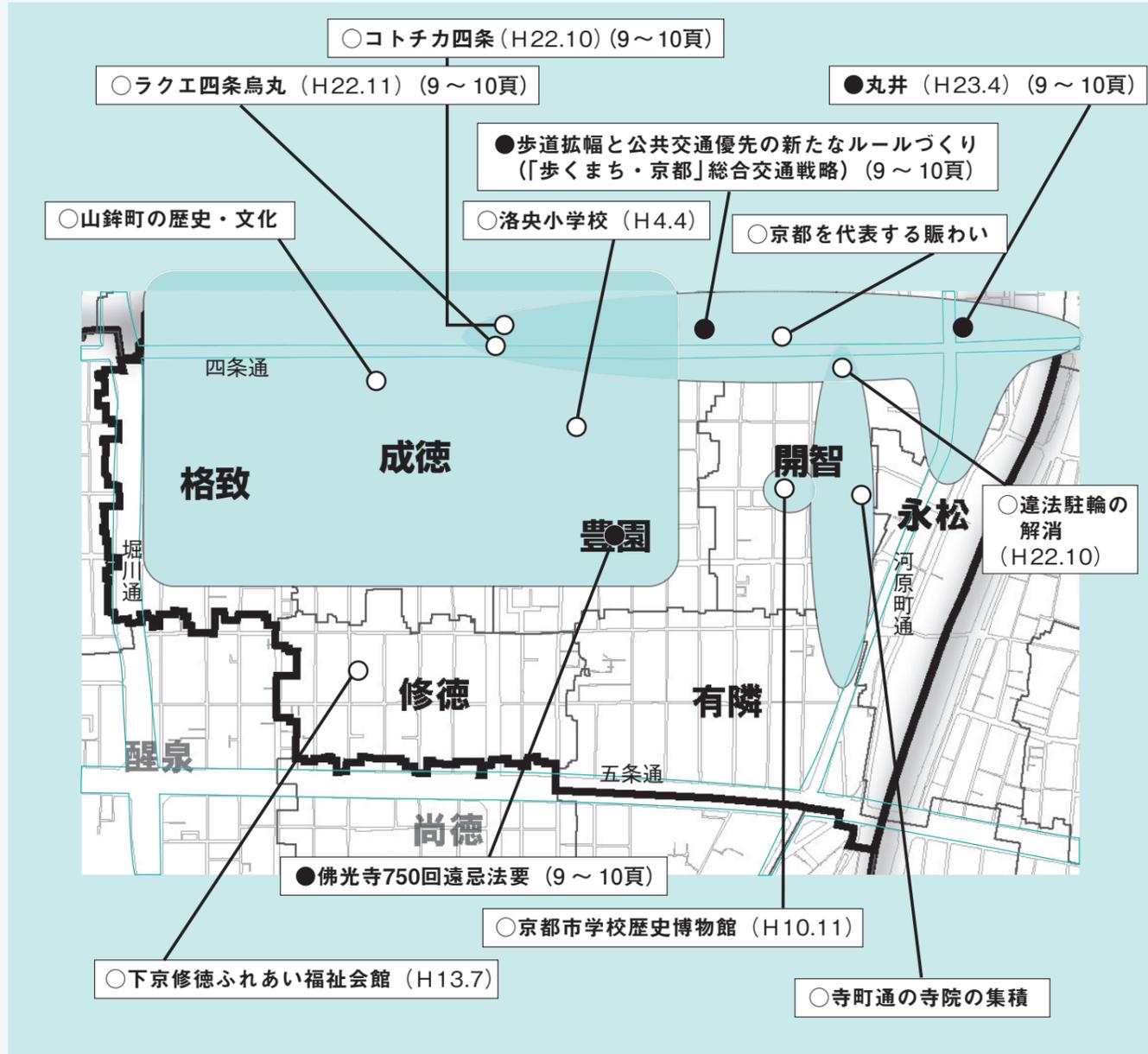
**<今後の新たな計画>**

- 京都ヨドバシビル内での「京都祇園祭の山鉾行事」ユネスコ無形文化遺産登録記念展示 (H23夏)
- 七条警察署跡地活用(府民ステーション構想) (H26)

【注】各プロジェクトの記載内容は、本計画がスタートする平成23年4月現在のものです。

## (2)-1 北東地域の強み

京都を代表する賑わいと、神事・伝統産業の技術が息づくまち



### ● 京都を代表する賑わい

四条通、河原町通など、市民、そして来訪者が集い、賑わう、京都一の繁華街を形成しています。祇園祭では、山鉾が巡行し、宵山には歩行者天国として、賑わいます。

また、四条烏丸周辺では、「ラクエ四条烏丸」が開業（H22.11）するなど、風格のある商業施設がますます集積しています。

### ● 山鉾町の歴史・文化

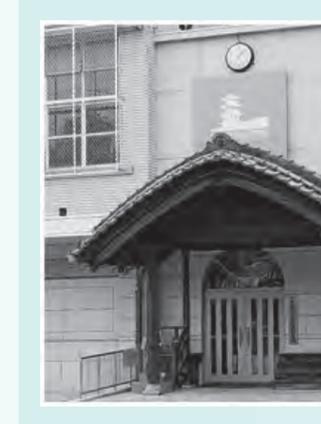
祇園祭の32基の山鉾のうち、半分の16基がこの地域で保存・継承されてきました。祇園祭は国指定重要有形・重要無形民俗文化財に指定されているほか、「京都祇園祭の山鉾行事」がユネスコの無形文化遺産に登録されています。元成徳中学校跡には、「文化政策・まちづくり大学校」の開校を予定しています。

### ● 寺町通の寺院の集積

豊臣秀吉の京都改造の一つとして、天正18（1590）年、洛中に散在していた寺院が一つの通りに集められ、「寺町通」と称されるようになりました。寺町通では今でも数多くの寺院が残っています。



祇園祭▶



### ● 京都市学校歴史博物館

元開智小学校跡に建設され、「番組小学校」をはじめとする京都の教育の伝統と学校の運営・創設への町衆の情熱を全国に発信するため、番組小学校に関する資料や京都市の学校に遺された教科書・教材・教具などの教育資料などを収集・保存・展示しています。

◀京都市学校歴史博物館

### ● 下京修徳ふれあい福祉会館（22.10）

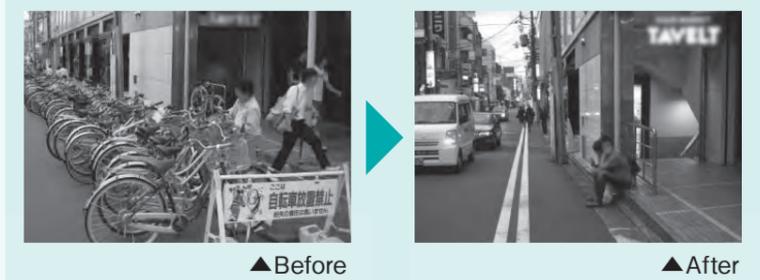
元修徳小学校の跡地を活用して、高齢者福祉施設、児童館、下京図書館の複合施設として整備されました。地域における高齢者福祉の向上や子どもの健やかな成長と子育て支援を図り、新たな文化の創造と区民の生涯学習を推進しています。

### ● 住民主体のまちづくり活動

学区区民の強い絆を形成しつづけていきたいとの願いを込めた「修徳学区まちづくり憲章」や、有隣まちづくり委員会の地区計画をはじめ、町衆の伝統が受け継がれた新しい時代のまちづくりが進められています。

### ● 四条寺町の違法駐輪解消

多くの自転車が放置されていた四条寺町下るエリアにおいて、平成22年10月に京都市の助成金制度を活用して民間駐輪場が整備され、地元住民、京都市職員の啓発や駐輪場運営会社の現地誘導の効果もあり、長年の課題であった放置自転車がほぼなくなった。



▲Before

▲After

### ● 伝統的な産業・工芸の職人の集積

伝統文化や生活が息づき、また寺町通に寺院の集積した本地域では、生活文化や宗教文化に関連した伝統的な産業・工芸が繁栄し、今も高い技術や独自の技能を持った数多くの職人が、まちなかで活躍しています。

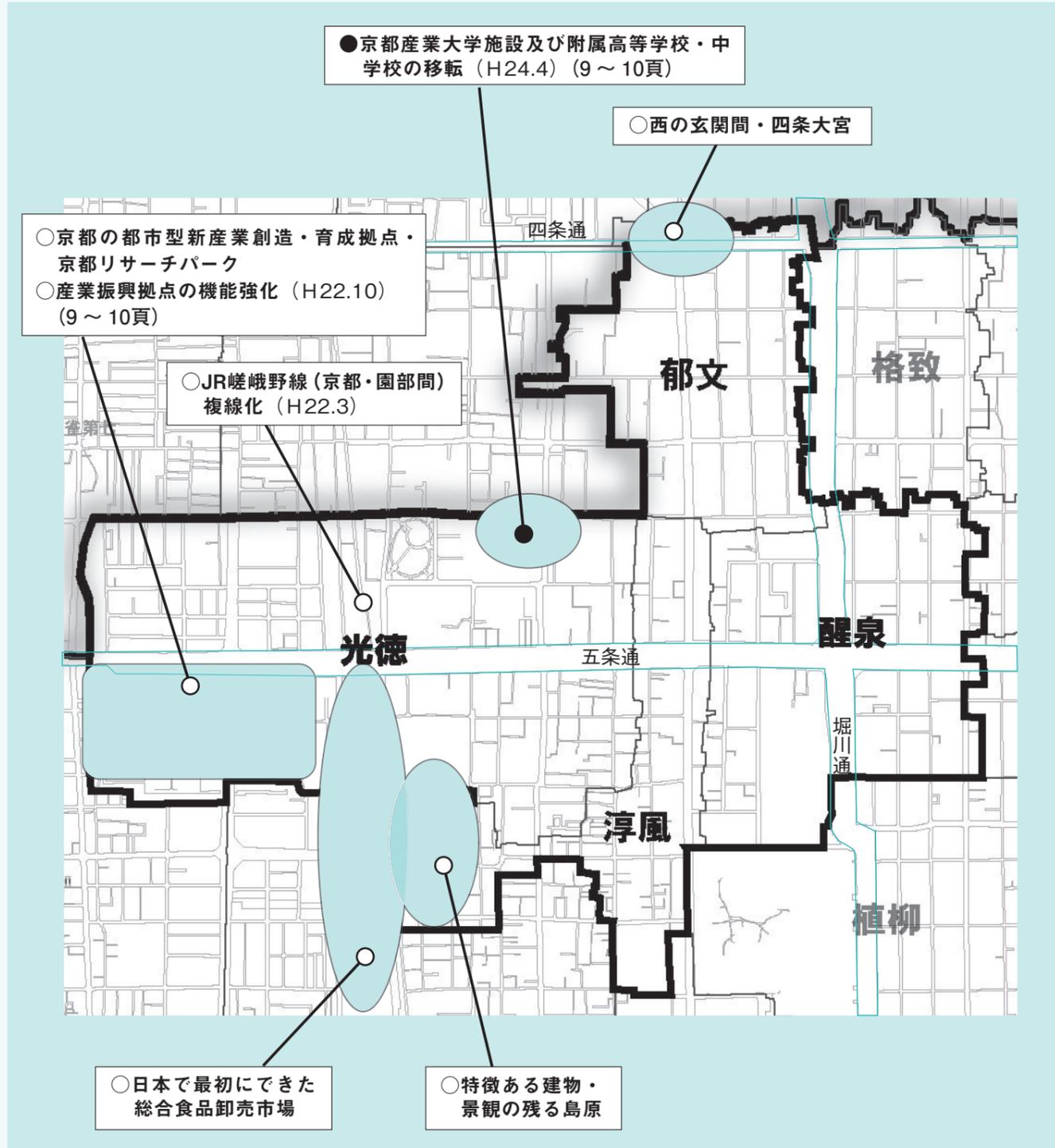
### ● 洛央7学区のコミュニティのつながり

5つの小学校の統合により誕生した洛央小学校において、校区を同じくする7学区では、地域の各種団体が連携し、小学校の学習・スポーツ活動や安心安全への協働の取組を通じて、小学校を中心とした新しいコミュニティのつながりが強まっています。



## (2)-2 北西地域の強み

京都産業の歴史を培い、今を担い、未来を創造し、京都の活力を育むまち



● 西の玄関間・四条大宮

嵐山や大阪方面から京都都心部に来訪者を迎える下京の西の玄関間・交通拠点となるのが四条大宮です。

四条大宮と再整備が進む梅小路公園を結ぶルートには京都市中央卸売市場第一市場や京都市リサーチパーク、島原などの地域資源が集積しており、来訪者の回遊性の向上に期待が高まります。「王将」もここから誕生しました。

● 特徴ある建物・景観の残る島原

京都の六花街のひとつであった島原には、現在も営業する「輪違屋」や建築物として日本に唯一残る揚屋造の遺構である「角屋」など、都心部にあって、当時の面影を今に伝える建築物や景観が残っており、石畳風の街路が整備されるなど、景観づくりも進んでいます。



● 日本で最初にできた総合食品卸売市場

京都市中央卸売市場第一市場は、野菜や果物、魚などを扱う日本で最初の中央卸売市場として誕生しました。

京野菜やハモを扱い、京の食文化を支える役割も果たしています。また、毎年11月に開かれる「鍋まつり」は数万人が訪れる大イベントとして定着しています。



● 京都の都市型新産業創造・育成拠点京都市リサーチパーク (KRP)

● 産業振興拠点の強化

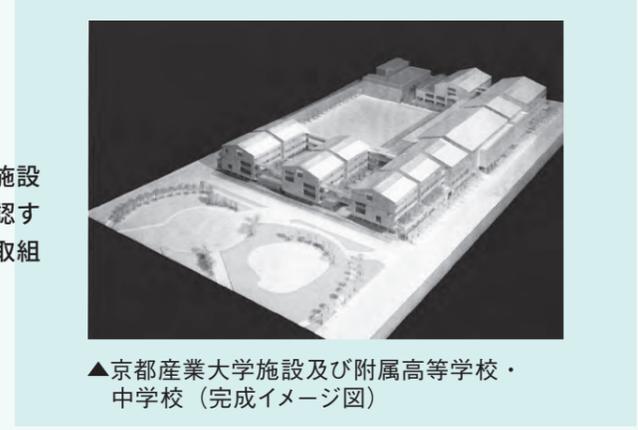
我が国最初の民間主導による都市型新産業創造・育成拠点として整備されました。

京都府、京都市の産業支援機関が集積しており、研究開発や新産業創出の推進、中小企業の支援を行っています。

平成22年10月に「京都市産業技術研究所(京都ものづくり未来館)」の立地的統合が実現し、身近に中小企業支援の拠点が形成されました。

● 自主防災への取組

学区自主防災会が京都市リサーチパークや区内の社会福祉施設などと個々に協定を交わし、大規模災害時の協力体制を確認するとともに、平常時から防災訓練を行うなど、自主防災の取組を積極的に進めています。



基本計画の構成

基本的な考え方  
下京区の現状

まちの強み  
(個性と魅力)

10年後のまちの姿  
まちづくりのテーマ

テーマごとの  
取り組み

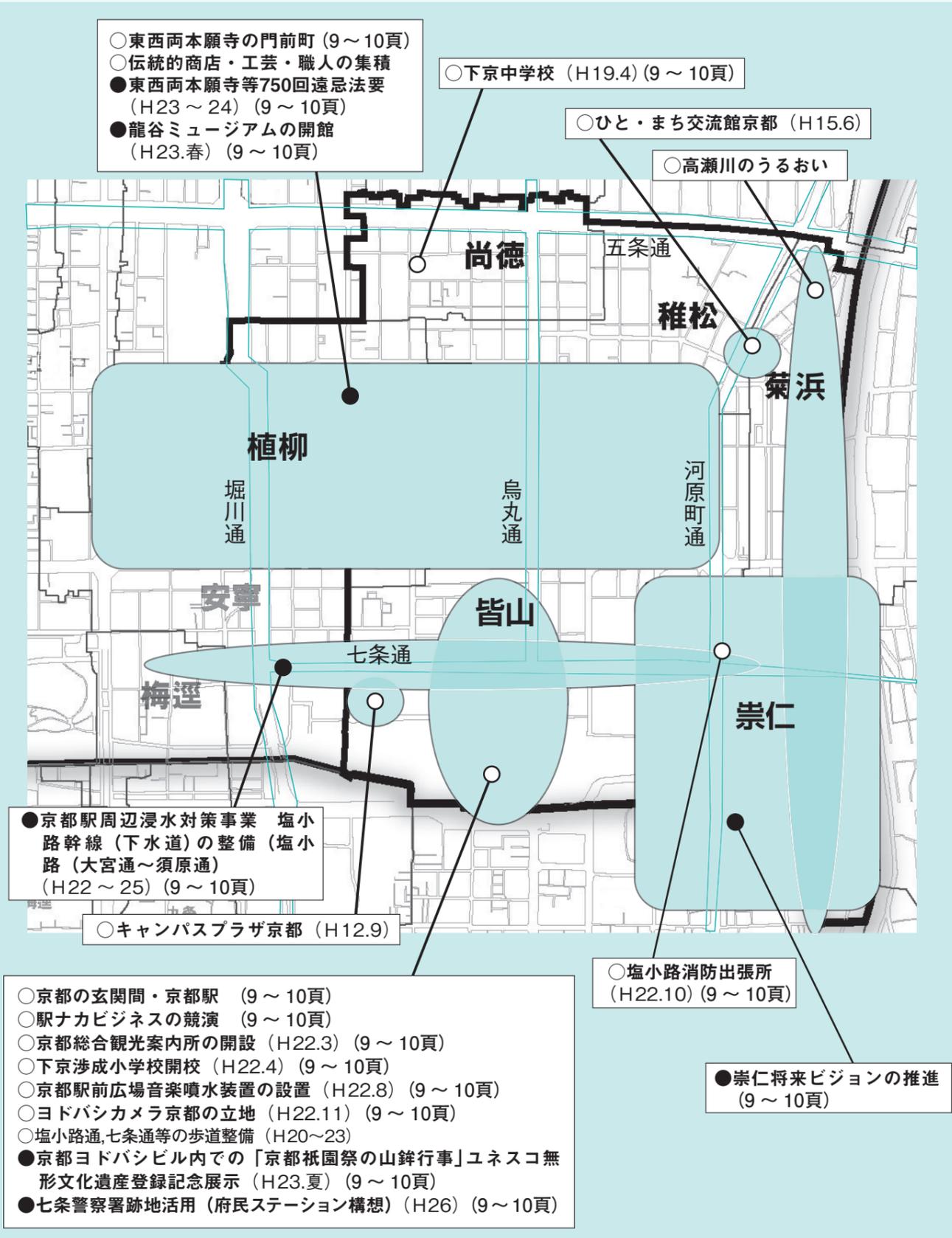
まずやること

計画の推進・チェック  
指標

参考資料

## (2)-3 南東地域の強み

国際都市の玄関間と新たな学区コミュニティのモデルとして、京都の「顔」の役割を担うまち



### ● 京都の玄関間・京都駅

国際文化観光都市・京都最大の交通ターミナルであり、京都を訪れる人が集散する京都の玄関間です。JRをはじめ、近畿日本鉄道、市営地下鉄が乗り入れ、日常生活や観光におけるバス交通の発着点でもあります。

### ● 東西両本願寺の門前町

わが国の宗教でも全国に屈指の門徒数を有する真宗大谷派(東本願寺)、浄土真宗本願寺派(西本願寺)の本山が京都駅前であり、両本願寺にはさまれた地区では仏教関連を中心とした伝統的産業などが立地し、門前町を形成しています。



▲西本願寺のイチョウ

### ● 伝統的商店・工芸・職人の集積

仏壇、仏具、装飾品(袈裟・数珠など)、香炉、金箔など、門前町らしい仏教関連の商店・工芸品店が軒を連ねています。こうした店の中には、職人の作業風景が見学できたり、伝統工芸を体験できるサービスを提供している店もあります。

### ● 高瀬川のうるおい

江戸時代初期、角倉了以・素庵父子によって、京都の中心部と伏見を結ぶ物流用に開削された運河である高瀬川のせせらぎは、都心にあつて、住民や来訪者にうるおいを与えてくれます。菊浜学区などでは美化活動も盛んです。

### ● 新たな学区コミュニティのモデル

下京中学校(H19.4)、下京渉成小学校(H22.4)の開校を契機として、従来の元学区や町内同士が連携し、教育活動や子どもたちの社会体験を支える、小中学校区をエリアとした新しい学区コミュニティの取組が広がっています。



▲(東本願寺) 渉成園

### ● ひと・まち交流館京都

「市民活動総合センター」「福祉ボランティアセンター」「長寿すこやかセンター」「景観・まちづくりセンター」の4つのセンターからなる複合施設で、市民参加型社会の形成と豊かな長寿社会の実現を目指す拠点となっています。

### ● キャンパスプラザ京都

「大学のまち・学生のまち」京都のシンボル施設であり、(公財)大学コンソーシアム京都の活動拠点になっています。

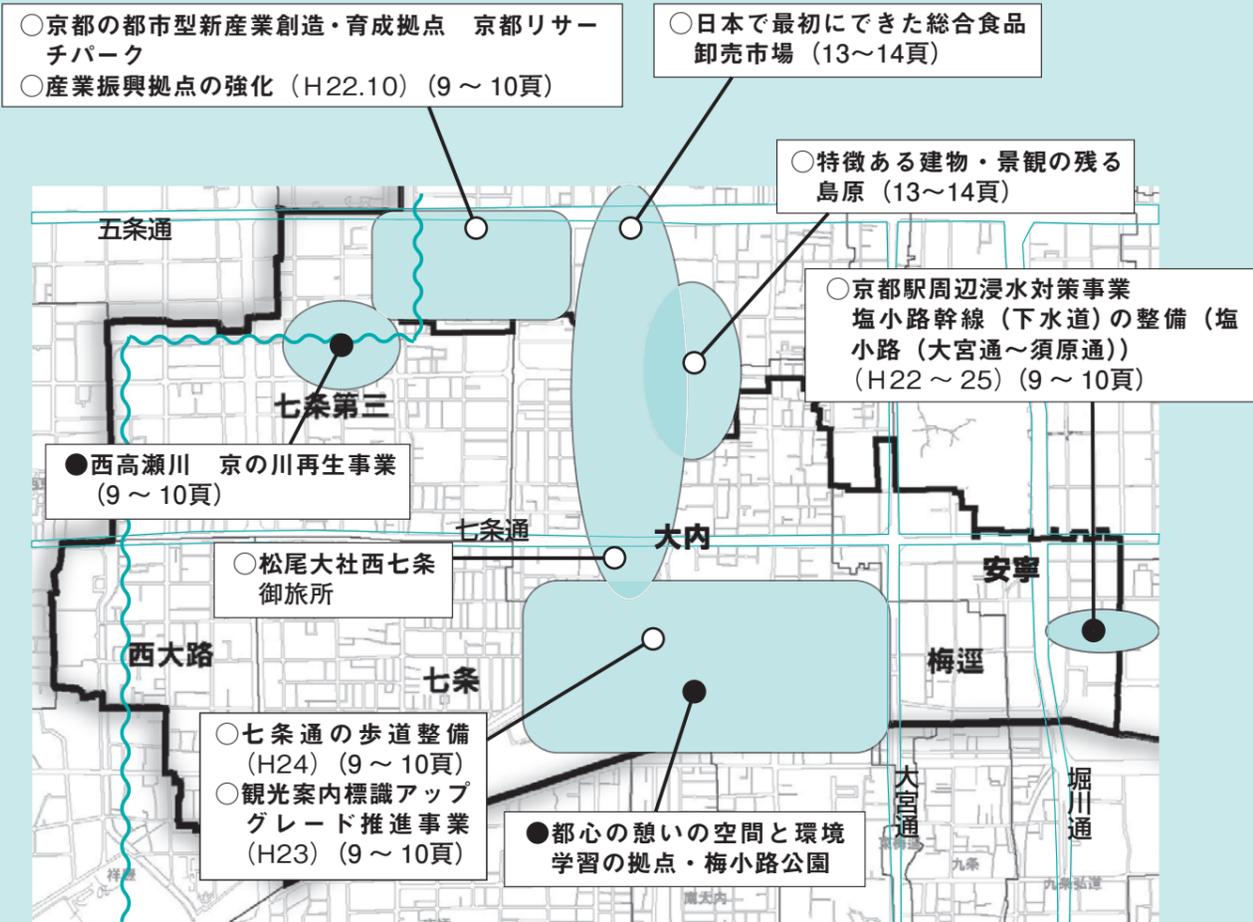
大学間や大学と産業界、地域社会などの連携及び交流を進めるために、京都市が設置したもので、京都の大学間の単位互換制度やインターンシップ・プログラムなど、「大学のまち京都」のスケールメリットを生かした事業を行うほか、1階の「学生の活動拠点」において、京都のまちの活性化につながる学生活動を総合的に支援しています。

### ● 龍谷ミュージアム



## (2)-4 南西地域の強み

心地よい住環境と新しい体験型教育が都心で共存する、住みごたえのあるまち



### ● 人口集積の拡大 (人口の増加)

当地域は区域全体の人口増加の中核を担っており、特に子ども、そしてその親世代の人口増加が大きくなっています。また、1世帯当たりの人員も下京区全体に比べて多く、区内でもファミリー層が多く居住する地域と考えられます。(南西地域:2.15人/世帯, 下京区全域:1.82人/世帯)

### ● 健康づくり・医療機関の充実

京都市内でも医療機関が充実した下京区内(P17グラフ参照)にあって、区内に立地する8病院のうち半数の4病院が当地域に立地しており、区民・市民に充実した医療サービスを提供しています。

### ● 都心の憩いの空間と環境学習の拠点・梅小路公園

市街地の中心にありながら、緑と花で憩える空間として、また災害時の避難場所として、平成7年に開園した面積約11.7haの都市公園です。公園内には、芝生広場、河原遊び場、ふれあい広場、建都1200記念日本庭園「朱雀の庭」、ピオトープ「いのちの森」、「チンチン電車」(土日祝のみ運行)やレストランなどがあり、平成22年には「野外ステージ」も設置されました。

さらに今後、緑豊かな環境の下で、家族や仲間と楽しみ学べる公園として再整備(水族館や鉄道博物館の整備)を機軸に、観光エリアの拠点としての役割や、防災トイレ(マンホールトイレ)及び避難誘導にも資する放送設備などの防災機能の向上を計画し、総合公園としての機能の充実を図ります。



### ● 自主防災の取組 (13~14頁)



### ● 日本で最初にできた総合食品卸売市場 (13~14頁)

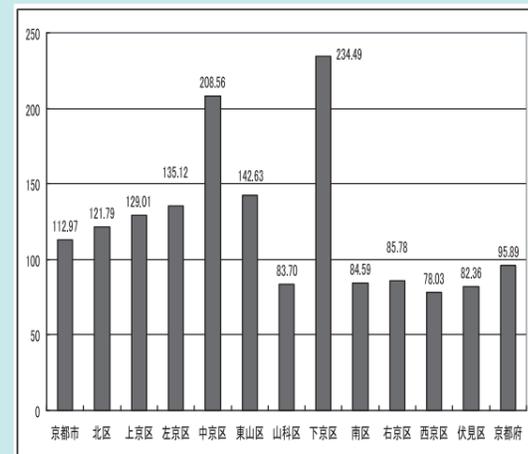


### ● 松尾大社西七条御旅所

当地域にある「松尾大社西七条御旅所」では、京都市西部で最も有名な祭祀である松尾祭(松尾大社)において、神輿が安置され、神事が行われます。神幸祭と還幸祭では神輿がまちなかを巡行し、その巡行を出迎える各地域では、住民の絆をつなぐ大切な行事となっています。



人口10万人当たり診療所数の比較(平成19年度)



※京都府医療施設調査及び推計人口から算出

年齢区分別人口の推移

年齢	南西ブロック				下京区 平成17年	京都市 平成17年
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年		
0~4歳	1,115	897	970	1,173	2,655	57,951
5~9歳	1,171	1,008	925	941	2,268	60,496
10~14歳	1,408	1,094	969	934	2,158	58,868
15~19歳	1,973	1,500	1,205	1,138	3,163	79,825
20~24歳	2,040	2,215	1,833	1,725	6,425	122,225
25~29歳	1,785	1,800	2,069	2,033	6,504	105,048
30~34歳	1,374	1,582	1,631	2,272	6,497	115,111
35~39歳	1,464	1,256	1,495	1,731	4,993	99,333
40~44歳	2,082	1,394	1,220	1,575	4,314	88,184
45~49歳	1,854	2,054	1,304	1,239	3,666	77,200
50~54歳	1,757	1,757	1,984	1,360	3,847	86,695
55~59歳	1,820	1,693	1,675	1,935	5,450	117,709
60~64歳	1,632	1,713	1,616	1,674	4,621	88,116
65~69歳	1,279	1,496	1,629	1,569	4,319	84,498
70~74歳	1,113	1,140	1,422	1,528	4,333	75,547
75~79歳	1,156	915	1,000	1,186	3,649	57,958
80~84歳	697	808	717	801	2,501	38,554
85~89歳	399	554	769	472	1,436	21,800
90歳以上	0	0	0	369	907	14,570
合計	26,119	24,876	24,433	25,655	73,706	1,449,688
0~14歳	3,694	2,999	2,864	3,048	7,081	177,315
15~64歳	17,781	16,964	16,032	16,682	49,480	979,446
65歳以上	4,644	4,913	5,537	5,925	17,145	292,927

※平成2~12年の90歳以上人口は85~89歳を含む

強みを生かした

### 3. 10年後のまちの姿

#### ◎区民同士のつながりが強まって、 安心安全な暮らしができています

まちの伝統や文化に魅力を感じ、あるいは利便性を求めて新しく住む人をみんながあたたかく迎え、自然に地域に溶け込み、進んで地域の活動に参加しています。

学区の歴史文化は大事にされながら、町内や学区を超えた、さまざまな活動が活発に行われています。

子どもから高齢者まで、まちにたくさんの顔見知りが出て、いろいろな世代の人が笑顔であいさつをかわし、会話の花があちこちで咲いています。

#### ◎京都駅周辺が個性的で魅力ある店であふれ、 たくさんの方が行き交い、賑わいが広がっています

京都駅南口広場が整備され、京都駅周辺の賑わいが更に広がっています。国際文化観光都市・京都の玄関間として、京都駅と東西両本願寺を結ぶ烏丸通、京都駅と（仮称）京都水族館、（仮称）京都鉄道博物館などで賑わう梅小路公園を結ぶ七条通が花や緑で美しく彩られ、たくさんの方が行き交っています。

人の流れに沿って、個性的で魅力ある飲食店やショップが集積し、外国人観光客が行き交い、まち全体が賑わっています。

さらに、仏教の総合博物館「龍谷ミュージアム」や西の島原から東の高瀬川、さらには東山へと賑わいが広がっています。

#### ◎崇仁地区の新たなまちづくりが進み、 まちの魅力向上に期待が高まっています

区画整理事業との合併施行により、これまでの住環境整備が終わり、ニーズに応じた多様な住宅の供給や木の文化を大切にすまち・京都の取組に沿って「平成の京町家」など市内産木材を用いた、低炭素で景観と調和した京都らしい都市住宅を供給するまちづくりが進んでいます。

「創造・交流・賑わいのまち」にふさわしい大学をはじめとする文化・芸術拠点施設などの魅力的機能の誘致・導入に期待が高まっています。

こうした取組は、東山への動線を形成する拠点のひとつとして、また、梅小路公園に続く国際文化観光都市・京都の玄関間の魅力を高めるまちづくりとして大きな期待を担っています。

#### ◎みんなが参加しやすいコミュニティのモデルを生み出し、 受け継いでいます

京都の知恵と、コンパクトなまちの個性を生かした環境に貢献する取組やコミュニティの活性化で、新しいまちづくりのモデルを実践し、他の学区や近隣都市・地域へと広めています。

子どもたちは、自分が住む学区やまちに誇りと愛着を持ち、できる限り住み続けたい、たとえ離れることがあっても、いずれは戻ってきたいと考えています。

### 4. 今後10年のまちづくりのテーマ

スローガン

—京都駅から四条の通り、鴨の川から西高瀬—

## 絆,魅力,伝統を未来につなぐまち 下京

#### テーマⅠ 人と人との絆（きずな）をつなぐ（人をつなぐ）

京都のなかで最も強く「町衆」の文化が息づき、自助・共助の気風にあふれたコミュニティを次代にも継承していくため、ふれあい・交流で区民の絆を深めます。

また、区民のふれあいで、互いに支え合い、助け合う、安心安全のまちづくりを実現していきます。

#### テーマⅡ まちの魅力や資源をつなぐ（空間をつなぐ）

歴史文化資源やものづくり・商業・新産業創出などの産業資源、宗教・学術関連施設、そして梅小路公園の再整備に伴う水族館・鉄道博物館や新しく生まれ変わる崇仁地区など、魅力にあふれたまちの資源を面的につなぎ、区民も来訪者も楽しく回遊できる地域全体の魅力向上（エリアマネジメント）を図ります。また、国際文化観光都市・京都の玄関間として、国内外からの来訪者をあたたかく迎えるふれあい・もてなしの機会や気持ちを高めていきます。

#### テーマⅢ 歴史と伝統を未来へつなぐ（時をつなぐ）

環境にやさしいライフスタイルや門掃きなどの美化への取組、学区や町内を基礎としたコミュニティやまちづくりの工夫など、中世の時代から京都の繁栄の中心を担い、自ら育んできた「町衆」の歴史や伝統の良いところを未来につないでいくため、学区・町内同士の交流やまちづくりを担う次代の「町衆」の育ちを応援し、活動を育んでいきます。

## 5. テーマごとの取組

10年後のまちの姿を目指し、描く将来像に近づけていくため、次のテーマをもって、区民みんなでまちづくりに取り組んでいきます。

### まちづくりのテーマ

テーマⅠ 人と人の絆(きずな)をつなぐ(人をつなぐ)

テーマⅡ まちの魅力や資源をつなぐ(空間をつなぐ)

テーマⅢ 歴史と伝統を未来へつなぐ(時をつなぐ)

### 【それぞれの項目の見方】

#### テーマ

10年後のまちの姿を実現するために、区民みんなが共有する大テーマです。

#### 小テーマ

テーマに基づき、計画期間内で目指す方向性を示しています。

### テーマⅠ 人と人の絆(きずな)をつなぐ(人をつなぐ)

自助・共助の気風にあふれた「町衆」の文化が息づくコミュニティを次代にも継承していくため、ふれあい・交流で区民の絆を深めるとともに、互いに支え合い、助け合う、安心安全のまちづくりを実現していきます。

#### テーマⅠ-1 健やかな暮らしを地域力で育もう

##### みんなでめざすもの

- ◎ 住民同士の身近なふれあいやスポーツ・軽運動への参加を通じて、住民自らが健康を育むまちをつくります。
- ◎ 住民同士のふれあいや、新たに住まう住民が自然に溶け込めるふれあい・交流の機会をつくって、安心な地域コミュニティをつくります。

##### とりくみ

#### 1 地域力による健康づくり

##### ① みんなで楽しく歩いて健康になる

【とりくみ例】

- 大学や企業との協力による、歩いて元気になる取組の展開

#### 2 地域の絆による健康の保持

##### ① 情報を正しく伝える

【とりくみ例】

- 感染症に対する正しい知識や予防対策のコミュニティへの発信

#### とりくみ

小テーマの方向性を基礎に、具体的に取り組む施策を示しています。

#### とりくみ例

とりくみ(施策)を進めていくための事業のイメージやアイデアを示しています。テーマを実現していくために効果的な事業はこのほかにも様々なものがあり、柔軟に考え、進めていきます。

## テーマⅠ 人と人の絆(きずな)をつなぐ(人をつなぐ)

自助・共助の気風にあふれた「町衆」の文化が息づくコミュニティを次代にも継承していくため、ふれあい・交流で区民の絆を深めるとともに、互いに支え合い、助け合う、安心安全のまちづくりを実現していきます。

### テーマⅠ-1 健やかな暮らしを地域力で育もう

#### みんなでめざすもの

- ◎ 住民同士の身近なふれあいやスポーツ・軽運動への参加を通じて、住民自らが健康を育むまちをつくります。
- ◎ 住民同士のふれあいや、新たに住まう住民が自然に溶け込めるふれあい・交流の機会をつくって、安心な地域コミュニティをつくります。

#### とりくみ

#### 1 地域力による健康づくり

##### ① みんなで楽しく歩いて健康になる

【とりくみ例】

- 大学や企業との協力による、歩いて元気になる取組の展開
- 歴史資源や消費カロリーの目安を示すマップなど、各学区・ブロックを楽しく歩くための工夫

##### ② ぬくもりのある人間関係で心の健康を育む

【とりくみ例】

- 住民一人ひとりがお互いのことを思いやり、尊重し合う意識の啓発
- 悩みや心配が相談でき、適切なアドバイスで心の健康を育む仕組みや近所づきあいづくり(自殺予防, DV対策, 児童・高齢者虐待防止)

#### 2 地域の絆による健康の保持

##### ① 情報を正しく伝える

【とりくみ例】

- 感染症に対する正しい知識や予防対策のコミュニティへの発信
- 正しい情報が伝わる仕組みづくりと確認
- 軽い運動やまちを歩く活動など、健康づくりへの参加と誘い合い

##### ② 身近な仲間ですぐに助け合う

【とりくみ例】

- 感染症発生時に保育所に代わってご近所で子どもを預け合える関係づくり
- 感染症発生時に介護が必要な人をご近所で支え合える関係づくり

みんなの力で  
地域力を育てましょう。



## テーマ①-2 近所のお付き合いで安心を支えよう

### みんなでめざすもの

- ◎ 子育て世帯やお年寄り、新しく入ってくる人を地域のみんなであたたかく見守り、迎え入れるまちをつくりまします。
- ◎ 災害時にも適切な情報が得られ、お互いの助け合いと外からの支援が円滑に得られる地域コミュニティをつくりまします。

### とりくみ

#### 1 みんなで支える見守り運動

##### ① 子育て世帯を温かく見守る

【とりくみ例】

- ファミリーサポート事業\* や昼間里親制度などの広報・PR
- ファミリーサポートへの参加の呼びかけとサポーターの技術の向上

##### ② お年寄りのいる世帯に目を配る

【とりくみ例】

- 町内や学区単位でお年寄りのいる世帯の把握
- お年寄りのいる世帯への日常的な声のかけあい
- お年寄りが同年代や多様な世代と交流・ふれあう場づくり

##### ③ 障害のある人を地域で支える

【とりくみ例】

- 障害のある人が地域社会で自立して安心して暮らせるよう支援

##### ④ 身近なご近所の問題を改善・解決あるいは専門機関につなぐ仕組みを整える

【とりくみ例】

- ゴミや騒音、交通など生活公害にコミュニティで対応できる仕組みづくり
- 町内や学区のことを日常的に話し合える場づくり
- 地域で解決できないお年寄りや障害のある方の問題を専門機関につなぐ仕組みづくり

##### ⑤ 地域力による生活サービスの確保

【とりくみ例】

- 事業者と地域団体などの連携による買物や生活サービス支援の仕組みづくり

#### ※ ファミリーサポート事業

■ 育児の援助を受けたい人（依頼会員・おねがいさん）と育児の援助をしたい人（提供会員・おまかせさん）が会員となって育児を助け合う事業。保育施設の開始前や終了後の子どもの預かり、保育施設までの送迎、通院や冠婚葬祭時の一時的預かりなど。会員は登録制。  
■ この事業の拠点となるのがファミリーサポートセンターで、地域での広報活動や会員登録の受付、講習会の開催、会員からの利用申込みの受付などを行なう支部は、下京区では崇仁児童館に置かれています。

## テーマ①-3 地域力を生かして安全を高めよう

### みんなでめざすもの

- ◎ 町内や学区の連携で住民の目が地域に行き届き、犯罪の起こりにくい環境や仕組みをつくりまします。
- ◎ 歩行者や自転車がお互いにルール・マナーを守り、安全・快適に通行できる交通環境をつくりまします。

### とりくみ

#### 1 地域ぐるみの防犯・交通安全

##### ① 夜間に安全な環境をつくる

【とりくみ例】

- 夜間の通りを明るくする門灯点灯運動の実施
- 企業や事業所の夜間を明るくする活動への協力

##### ② 学区が連携して子どもの安全を見守る (下京涉成小学校統合に伴う環境整備)

【とりくみ例】

- 学区の連携による通学路の効果的な見守り活動の実施
- 通学路の抜け道としての利用の防止(交通規制など)

#### 2 違法駐輪の排除

##### ① 駐輪場の確保に努める

【とりくみ例】

- 公共用地や私有地の空閑地を生かした駐輪場の設置
- 既存駐輪場の利用を促すPRと駐輪の誘導

##### ② 違法駐輪を排除する仕組みをつくる

【とりくみ例】

- 違法駐輪の原因（責任者）の明確化と対応の要請
- 地域連携による見張りやパトロールの仕組みづくりと継続的な実施
- 違法駐輪を抑制するバリアグッズの設置

#### 3 誰もが安全に歩ける環境づくり

##### ① 自転車交通マナーの向上を働きかける

【とりくみ例】

- 警察と連携した手書き看板や啓発ポスターの作成と設置
- 自転車マナー・ルールを徹底する交通教室などの開催
- 区内の学校への自転車マナー遵守の働きかけ

##### ② ユニバーサルデザインに基づき歩道を整備する

【とりくみ例】

- ユニバーサルデザインに基づく歩道の拡幅や傾斜・段差の解消などの整備

##### ③ 歩道の安全性を高める

【とりくみ例】

- 歩行者の通行を妨げる電柱や歩道上の設置物の移設・排除
- 幹線道路などにおける歩行者と自転車の共存・分離

ご近所付き合いを大切に！



## テーマⅡ まちの魅力や資源をつなぐ (空間をつなぐ) <エリアマネジメント>

歴史文化資源や産業資源, 宗教・学術関連施設, そして梅小路公園の再整備に伴う水族館・鉄道博物館や新しく生まれ変わる崇仁地区など, 魅力にあふれたまちの資源を面的につなぎ, 地域全体の魅力向上(エリアマネジメント)を図るとともに, 国際文化観光都市・京都の玄関間として, 来訪者をあたたかく迎えます。

### テーマⅡ-1 まちの活力を高めよう

#### みんなでめざすもの

- ◎ 梅小路公園の新しい集客施設(水族館・鉄道博物館)のインパクトをまちぐるみで地域の活性化に結びつけていきます。
- ◎ 国際文化観光都市・京都の玄関間の立地と門前町の個性, そして地元商店のやる気を生かした新しい「歩いて楽しい」魅力をつくります。

#### とりくみ

##### 1 梅小路公園の再整備の推進

###### ① 新たな集客施設を整備する

【とりくみ例】

- 「(仮称) 京都水族館」の整備
- 「(仮称) 京都鉄道博物館」の整備

###### ② 広域的な連携で戦略をつくる

【とりくみ例】

- イオンモールKYOTOなど京都駅南口との一体的なPRの展開
- JR京都総合運転所(向日市), 京阪電鉄びわこ号(寝屋川市)などと連携した鉄道愛好家集客ネットワークづくり

##### 2 梅小路の新たな取組を生かした賑わいづくり

###### ① 「梅小路圏」のブランドをつくる

【とりくみ例】

- 地域全体で共有する活性化の方針づくり
- 新しいPR資源(マスコット, 物語)の創出

###### ② 鉄道駅から「歩く」仕掛けをつくる

【とりくみ例】

- 公共交通と「歩くまち」を中心とした周遊ルート(交通システム)づくり
- 周遊ルートのPR(案内, マップ, 道しるべ)

###### ③ 梅小路を中心としたエリアマネジメントの推進

【とりくみ例】

- 関係者からなるエリアマネジメント推進組織づくり
- 地元資源の発掘と磨き上げ
- 地元資源(機関車, 新撰組など)を生かした地域のPR

#### とりくみ

##### 3 京都駅を中心とした賑わいづくり

###### ① 魅力ある個店による新たなネットワークづくり

【とりくみ例】

- 新たな来訪者を取り込む魅力的な個店づくり(店舗リニューアル, キャラクターグッズなど商品づくり, 体験型サービス)
- 七条通を中心とした商店街ネットワークの展開
- 京都駅南北の連携や役割分担による相乗効果の発揮

##### 4 門前町の活性化

###### ① 門前町の商店・個店を中心とした活性化

【とりくみ例】

- 東西両本願寺750回遠忌法要を契機とした門前町商店の連携
- 門前町における新たな集客イベントなどの実施(門前町ルネッサンスのリニューアル)
- 定期的な「門前市」や「縁日」の開催

##### 5 崇仁地区の将来ビジョン報告書に基づくまちづくり

<創造・交流・賑わいのまち>をめざして

###### ① 崇仁北部地域全体を視野に入れた将来ビジョン(「つなぐ」をキーワードに広い視点からの検討)

###### ② 新たな土地等の利活用による魅力的機能, 施設等の導入(魅力と賑わいのあるまち)

###### ③ 環境に配慮した魅力ある景観形成(地域資源を生かす景観・環境づくり)

###### ④ 多様な住宅の供給(コミュニティの再活性化と多様な住宅の供給)



## テーマⅡ-2 まちの個性を生かし魅力を高めよう

### みんなでめざすもの

- ◎ 地域の歴史文化や京都リサーチパーク、京都市中央卸売市場第一市場など、まちの個性を生かし、まちの魅力を高めていきます。
- ◎ 多様な来訪者に対応したテーマやストーリーでまちの資源や魅力を紹介し、徒歩や公共交通による回遊性を高めます。
- ◎ 住民も、国内からの来訪者も、外国からの観光客も、誰もがまちの歴史や文化にふれ、学び、体験し、「ほんもの」にふれられるまちをめざします。

### とりくみ

#### 1 地域資源を生かした個性と魅力の向上

##### ① 地域の名産・文化・技術を発掘し、活用する

###### 【とりくみ例】

- 祭り・イベントの計画的な展開
- 歴史を生かした門前町らしい土産物の開発やお店の誘導

##### ② 個性的な地域拠点の回遊性を高める

###### 【とりくみ例】

- 京都リサーチパーク（国際会議の来訪者やベンチャー企業の集積を生かしたネットワークの展開）
- 島原（歴史的建築物の保存、特徴ある景観づくり）
- 龍谷ミュージアム（来訪者・外国人向けの案内・説明など）
- 京都市中央卸売市場第一市場（京の食文化・食育推進の拠点としての活用、下京区フードツーリズム（食べ歩き・土産物づくり）の推進）
- 地域拠点・施設と交通拠点の回遊性の向上（歩きやすい道路整備、案内サインの充実、公共交通の利便性向上など）

##### ③ 商店街・商業地域が連携・協働して活動する

###### 【とりくみ例】

- 土日営業など、来訪者を意識した営業運動
- 京都駅と四条通の人の流れをつくり出す商店・商店街の広域的なつながりづくり
- やる気のある事業者の魅力的な商店街・商業集積づくりの促進・支援

#### 2 区民も来訪者も学び、楽しめる工夫（観光＝地域の光＝文化にふれること）

##### ① 歴史・文化資源の魅力を高める（駒札の整備、学区歴史文化の検証・学区史づくり）

###### 【とりくみ例】

- 学区や町内の歴史・文化や言い伝えなどのとりまとめと学ぶ場づくり
- まちの資源や個性をつなぐテーマやストーリーづくり
- 興味をひく駒札など、「地域の光＝文化」にふれる地域内観光の推進
- 地域の祭り、季節の行事など、市民生活にふれる機会づくり

##### ② まちなかの「水」の環境を生かす

###### 【とりくみ例】

- 人が集い、学び、ふれあう空間としての高瀬川、西高瀬川などの整備・活用
- 河川を軸としたまちのストーリーづくり

##### ③ 来訪者を温かく迎える（ホスピタリティの涵養）

###### 【とりくみ例】

- 町内・学区ボランティアガイドの育成（地域の歴史や説明の仕方の講習、案内ボランティア認定制度の創設）

##### ④ 海外からの来訪者の利便性を高める

###### 【とりくみ例】

- 案内役・通訳としての学生（留学生）紹介の検討（キャンパスプラザ京都の「学生の活動拠点」の活用及び各大学との連携）
- 外国人向け滞在型観光の情報提供（バックパッカーに夏祭りなどの地域情報を提供）
- 外国人向けサイン（標識、案内板、道しるべ）の充実

#### （参考）※

■「未来・京都観光振興計画2010+5」においては、「観光サポーター制度（仮称）の創設」を計画に掲げています。

## テーマⅢ 歴史と伝統を未来へつなぐ（時をつなぐ）

環境にやさしいライフスタイルや学区・町内を基礎としたコミュニティなど、京都の繁栄の中心を担い、自ら育んできた「町衆」の歴史や伝統の良いところを未来につないでいくため、学区・町内同士の交流や次代の「町衆」の育ちを応援し、活動を育んでいきます。

## テーマⅢ-1 エゴを捨ててエコ活動しよう

### みんなでめざすもの

- ◎ 下京区環境宣言を踏まえ、国際文化観光都市・京都の玄関間にふさわしく、住民が日々を快適に暮らせる美しいまちをつくりまします。
- ◎ コンパクトで移動や買い物の利便性が高い特性と、しっかりとしたコミュニティを生かし、優れた生活環境を子や孫の世代に引き継ぎます。

#### ※下京区環境宣言

- 次の世代にこの素晴らしい下京を引き継ぐため、環境にやさしい取り組みを行っていくことを謳った宣言。平成21年7月5日、下京区130周年を祝う記念式典において採択。
- 「私たちは、次の世代に美しい下京を引き継ぐため、地球環境にやさしい暮らし方をします。」をスローガンに、次の3つの基本方針や具体的な行動提起を掲げています。
  - 1) 「もったいない・始末するこころ」で、限られた資源を大切にし、ごみ減量に努めます。
  - 2) 毎日の暮らしに息づく伝統を大切に、良い生活環境を守ります。
  - 3) クルマを賢く利用して、「歩くまち・下京」を目指します。

### とりくみ

#### 1 美しいまちをつくるコミュニティ活動

##### ① みんなで美化活動に取り組む

###### 【とりくみ例】

- 学区・団体による継続的な清掃・美化活動の実施
- 身近な生活空間を美しくする門掃き運動の推進
- 高瀬川など地域シンボルの美化運動の実施

##### ② ゴミ出しマナーの向上運動を進める

###### 【とりくみ例】

- 手書きの貼り紙や看板によるゴミ出しマナーの啓発
- マンションオーナー・管理者と地域の話し合いの場づくり
- 新しく住む人にわかりやすい地域のゴミ出しルール啓発冊子の作成・配布
- ゴミ出しの工夫のマニュアルや事例のとりまとめ（カラスよけネット、風対策など）

##### ③ 生活空間に花や緑を増やす

###### 【とりくみ例】

- みんなで集まって花を育てる
- 町内やマンションで花や緑を使った景観づくりを企画する
- 新しく住む人にも声を掛け、一緒に緑を育てる
- 生ゴミなど区内で発生する有機廃棄物を堆肥として活用した緑化の検討



とりのくみ

2 地球環境に貢献する暮らしの工夫

① 分別やリサイクルでゴミを減量化する

【とりのくみ例】

- 家庭ゴミの分別収集の拡充
- リサイクルに関する情報の提供

② 自動車を使わなくても便利に暮らせる環境と「歩く」ライフスタイルをつくる

【とりのくみ例】

- 鉄道やバス, 徒歩, 自転車による移動の利便性向上と積極的利用(歩道の整備, 自転車交通マナーの向上, 鉄道・バス利用の呼びかけ)
- ニーズの高い地域へのバスサービス向上の要請

③ ひと・まち・川のつながりの再生

【とりのくみ例】

- 高瀬川・西高瀬川の美化運動
- 身近な水辺空間の保全

④ 区民一人ひとりの「始末するところ」を高める

【とりのくみ例】

- 環境家計簿の普及など, 環境を意識した暮らし方の情報提供
- 各種団体を通じた環境運動への参加の呼びかけと連携協力

3 自然にふれ, 環境を学ぶ場づくり

① 子どもが自然とふれあう機会を充実する

【とりのくみ例】

- 市内の自然豊かな地域(京北地域など)で子どもが自然にふれる機会づくり
- 区民の農林業体験の機会づくり
- 地元農林産品・特産品を知る機会づくり(区民朝市など)

② 子どもが環境を学ぶ機会を創出する

【とりのくみ例】

- 保護者や住民と行う学校周辺地域の清掃活動
- NPOや企業と連携した環境学習



テーマ Ⅲ-2 担い手の育ちを支えよう

みんなでめざすもの

- ◎ このまちの良さを次の時代に継承していくため, 資源を生かして自ら主体的にまちづくりに取り組める, 企画力を持った地域活動の担い手やリーダーなど次代の町衆の育ちを応援します。
- ◎ 下京区に暮らし, 活動する多様な人や団体の交流や連携を促し, いろいろな担い手による効果的なまちづくり活動を育てます。
- ◎ 町内会・学区を中心とした地域コミュニティのあり方を検討するとともに, 参考となるコミュニティ事例の把握・情報提供を進めます。

とりのくみ

1 まちづくりを担う人づくり

① 新しい参加のきっかけをつくる

【とりのくみ例】

- 若手による声かけなど積極的な勧誘活動
- 参加のきっかけとなるイベントの実施(地域の祭り, スポーツ活動への参加の勧誘)
- 自治会活動の広報・啓発・PRの強化
- シルバークラブをはじめとする地域団体への団塊世代などの参加・参画の促進

② 若手リーダーや多様な担い手を育成する

【とりのくみ例】

- 子どもが学区文化や歴史を学ぶ場づくり
- 団体の連携による若手リーダー・担い手の発掘
- 子どものスポーツ活動の小学校区単位での応援
- 学校運営協議会や土曜学習による地域人材の育成

3 学校や学生と連携する

① 学区・広域の子どもと催し物のあり方を検討する

【とりのくみ例】

- 小学校の統合に伴う学区活動への小学生に対する呼びかけなどの工夫(子どもと学区の両方にとってよりよいあり方の検討)

② 大学や小中高校との交流・連携を進める

【とりのくみ例】

- 区内に立地する大学との連携(龍谷大学, 池坊短期大学, 京都産業大学)
- まちづくり活動における大学や小中高校, 学生・児童との連携(福祉・ボランティア活動や地域活性化など, 地域活動への参画・協働)
- 下京区における大学生の研究・体験活動の支援(学生の社会体験やフィールドワークにおける区内の団体・地域の紹介, 支援)